

SKILL UP

スキルアップ

理美容師に求められるスキルが多様化する中、
知っておきたい情報をお届けします。

資格: **SMBA**(シニアメンタルビューティアソシエーション)

協会: 一般社団法人シニアチャレンジッドメンタルビューティー協会

28年4月から「障害者差別解消法」の改正により、障がいを持った人への正しいコミュニケーションや知識が必要不可欠な時代に。SMBA(シニアメンタルビューティアソシエーション)認定校は現在全国に21校。講習は3時間×7日間の講習と、実施研修3時間。その後、卒業試験に合格するとディプロマ(卒業証書)が発行される。高齢者や障がい者とも密接に関わるSMBAは、合格すると損害保険に加入することができるなど、フォロー面も万全だ。訪問先は老人ホームや福祉施設だけでなく、医療機関など様々。抗がん剤の影響で、髪が抜け黒くボロボロになった爪。指先が綺麗になるだけでも心のケアにつながる。乳がんクリニックなどからの依頼も増えている。<http://fukushinail.jp>

SMBAの魅力にせまります!!

きっかけは一本の電話。 心の絆が生み出した福祉ネイル



一般社団法人シニアチャレンジッドメンタルビューティー協会
理事長 荒木ゆかりさん(ネイルサロンP&B 代表)



「福祉ネイルのきっかけは、ある利用者さんとの出会いでした」。そう語るの、8年間バリアフリーのネイル兼デコサロンを営んでいたSMBA理事長の荒木さん。

出会いはデイサービスからの一本の電話。ある利用者の旦那さんが、病気でふさぎ込んでいる奥さんにデコアートをした杖を誕生日プレゼントにしたいとのこと。「杖?」初めての依頼に戸惑いながらも「素敵な旦那さんの想い。少しでも奥さんに元気になってもらえるように」と、心を込めてデコアート。そして1週間。旦那さんの気持ち、世界にたったひとつの杖にとても感激して喜んでくれた奥さん。荒木さんはそんな奥さんにネイルもプレゼント。

それから約1カ月。またデイサービスから電話が。「奥さんが先日のネイルをととても気に入り、毎日嬉しそうに指先を眺めている。これからは毎月荒木さんにネイルをして欲しい」とヘルパーさん。「訪問ネイルの依頼は初めてだったので驚きの反面、嬉しかった! 毎月訪問する度に私のネイルを喜んでくれる奥さん

の笑顔を見ていると、ある時ふと『これが私がやるべきことなんだ』って思ったんです。そんなひとつの出会いが福祉ネイルのきっかけに。

それから訪問ネイルを積極的に行い始める荒木さん。意外にも始めてみると周囲に賛同する人が多くいたことに気がつく。そして周囲の応援があって昨年5月、正式に協会・資格制度を設立する。福祉の現状やコミュニケーションの取り方から学べるSMBAは、施設にいるヘルパーからも「とても助かります」と感謝される存在に。また受講者には「がんで入院しているおばあちゃんに、ネイルをして笑顔を取り戻したい!」という男性や、「60歳を過ぎてネイリストデビュー! いくつになってもやりたいことにチャレンジして良かった!」と老若男女様々だ。

「次の目標は2020年のパラリンピックの出場選手にネイルをすることです!」と熱く夢を語る荒木さん。指先だけで自然と人々に元気と活力をもたらす福祉ネイル。4年後、パラリンピックで多くの笑顔を見るのが楽しみだ。



指先からリハビリ! ネイリストの魅力を再認識



一般社団法人シニアチャレンジッドメンタルビューティー協会

大阪守口校講師 乾千鶴さん((株)Grus Japan代表取締役社長)



「ネイルの力って本当にすごいんです!」と、キラキラとした瞳で熱く語ってくれるのは、(財)シニアチャレンジッドメンタルビューティー協会(以下SMBA)講師、そしてこの4月で2年目に入るネイルサロンGrus代表も務める乾さん。

「サロンをオープンした時は休日の度に、スタッフと福祉施設へボランティアに行っていました。でも私自身が次第にオーナーとしての仕事に時間をとられるようになり、ボランティアに行く時間がなくなってきたんです。『スタッフの休日を壊してまでのボランティア。これって自己満足なのでは…』そんな葛藤に悩む中この資格に出会ったその時、まさに『これだ!』と思いました!」

SMBAには福祉とネイルをつなげる知識が集約されている。ネイルならではのコミュニケーションだといえる、手と手が触れ合うスキンシップ。今までネイリストとして何気なく行ってきたが、それが心のケアにとても深く関わっているという。会話が困難な自閉症の人でも爪を磨いてあげるだけで、出会った時は想像

もつかない笑顔を見せてくれることもあるのだそう。

また年配の方とは幼少期など昔の話を聞きながら会話をするというコミュニケーション方法「回想法」もSMBAの魅力のひとつ。この回想法は認知症予防にも効果があるという。

初めは派手な色を拒んでいたというある認知症の利用者さんの話。乾さんが繰り返し訪問する度に鮮やかな色を選ぶようになり、最近では「明日は孫と会うからこんなデザインにしたい!」と訪問前から乾さんのネイルを楽しみにしてくれているという。「人って不思議ですよね。ちょっとした心の変化も、ネイルの色味に現れたりするんです!」と嬉しそうに語る乾さん。

「ネイルをしたからリハビリがんばろう!」。女性はいくつになっても綺麗になりたいと思ひ、綺麗になる楽しさを感じてワクワクしたり活力が起こる。会話がなくても人と人の心をつなげ、人を笑顔にまた元気にできるSMBA。高齢者や障がい者の人にとっての心の癒し、そして支えになっているこの仕事に誇りと威厳を感じた。